

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立西町小学校

(平成31年1月24日作成)

1 学校教育目標 ○よく考え 工夫する子（知） ○心豊かで 思いやりのある子（徳） ○たくましく ねばり強い子（体） ＜キャッチフレーズ＞ 「感動いっぱい 夢いっぱい みんな生き生き 輝け西町」	
2 重点目標・努力目標 「潤いと品格のある西町小」 ○子どもが褒められる学校 ○親和的な学級集団で「確かな学力」を身につけさせる学校 ○健康な心と体を育むと共に、体力を向上させる学校 ○安心で安全に生活を送ることができる学校 ○保護者や地域からの信頼や期待に応える学校	3 前年度の成果と課題 成果 ○全校児童集会、幼保小中研究発表会、公開音楽会等の公開日を通して、広く地域へ教育活動を発信することができた。 課題 ●特別の教科道德について、より効果的な指導法の研究を行い、全学級において「考え、議論する道德」の確実な指導を行う。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○副担任制、教科担任制により、学年主任を中心とした学年集団による組織的な体制により、極め細やかで適切な児童への指導がなされた。 ○複数での文書確認、外部監査を導入した会計処理により、外部への配付文書や予算執行の間違えを防ぐことができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○全体研修や専門部研修、ブロック研修を通して、主題に迫るための手立てを考えることができ、児童一人一人に力をつけることができた。 ○研修で得た知識をすぐに日ごろの授業に生かすことができ、児童が生き生き授業に参加できるようになった。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○アレルギー対応研修を充実させ、当該児童の情報を共通理解することで事故防止を徹底した。 ○火災、地震、不審者侵入に加え、竜巻に対する避難訓練を実施し、危機管理の体制を充実させた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報持ち出し簿の活用、施設設備点検とその後の修繕を十分に行い、情報・施設設備の管理を適切に行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○各行事において、ホームページによる橋印を積極的に行い、学校だよりと合わせて、学校の教育活動を広く地域に発信することができた。 ○運動会、公開音楽会、学校公開等で保護者・地域に広く公開することができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○昨年度までの研究発表を引き継ぎ、低学年の生活科での園児との体験学習及び交流給食、高学年の乗り入れ授業や中学校との地域清掃活動、部活動体験及び草加中授業体験等を通して円滑に接続が実現した。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	B	○授業時数の管理を徹底することで、より安定した授業時数の確保することができた。 ●新学習指導要領での時間増による効果的な日課表の確立が課題である。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	A	○ノート指導の充実や教師の適切な板書により、児童に思考力・判断力・表現力を高めることができた。 ○家庭科や生活科、総合的な学習等で、ゲストティーチャーを活用し、学習効果を高めることができた。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	A	○授業参観や学校公開日を活用し、年間1回、全学級で道徳の授業を公開することができた。 ○指導者を招聘した講演や授業研究会により、効果的な指導法を確立することができた。
	④外国語活動	- 指導計画の立案 - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 各教科、道徳教育との関連 - 中学校との連携	A	○学習環境が整えられ、担任とALTとの共通理解も図られ、充実した学習活動が展開することができた。 ○校内研修で効果的な指導法を研究することで、児童のコミュニケーション能力を高めることができた。
	⑤特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 児童会活動	B	○年間を通して、異学年の縦割り活動を充実させ、冬の全校児童集会を保護者・地域に公開することができた。 ●学級指導（1）を全学年系統的に指導できるようにする必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	A	○ゲストティーチャーを効果的に活用するとともに、関連施設と連携することができた。 ○枝豆の植え付け・収穫、せんべい焼き体験、皮革産業等、地場産業を重視した授業実践を発展、充実させることができた。
	⑦生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、児童理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導委員会を機能させ、問題行動や教育相談に関する事案に複数で対応し、報告・連絡・相談を徹底するシステムを構築した。 ○いじめ防止基本方針の下、いじめの認知やいじめ対応について組織を整備し、「いじめゼロ」に向け、共通理解、共通行動をとることができた。
	⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○体験活動や中学校教員による乗り入れ授業等で進学に向けた希望を抱かせることができた。 ●さらなるキャリア教育を充実させる必要がある。
	⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○関係諸機関、専門家との連携を図るとともに、ユニバーサルデザインの観点をもとに、極め細やかな指導を行うことで、個に応じた教育の充実を進めることができた。
	⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○学校司書を有効活用し、各クラスの読書数の発表や、図書室の環境整備を行うことで、より一層図書館教育を推進することができた。
	⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○ICT支援員を有効活用し、授業で積極的に活用することで、児童の学ぶ意欲を高めることができた。 ●全学年において、プログラミング教育を充実させていく必要がある。
	⑫人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○各教科で、児童一人一人に人権意識や人権感覚を育むことができた。 ●人権感覚育成プログラムを活用し、校内研修を充実させる必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	1 思考力・判断力・表現力の育成	・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業改善 ・ノート指導の充実	A	○授業参観や学校公開で、保護者や地域に質の高い授業を発信することができた。 ○教育課程の伝達研修会や学力向上研修会で全教職員で共通理解することで、「思考力・判断力・表現力」を高めるための手立てを考え、授業実践することができた。
	2 「自己有用感」の育成 (児童を笑顔で迎え、笑顔で帰す)	・「いじめゼロ」「不登校ゼロ」 ・幼保小中を一貫とした教育の充実	A	○代表委員会による「いじめ0隊」、あいさつ週間の取組、児童の自主的なあいさつ運動への参加等の活動がより活発になり、「いじめゼロ」「不登校ゼロ」の実現に向けて積極的に取り組むことができた。 ○1・2年の生活科における園児との交流、6年の乗り入れ授業、中学校体験等で、円滑な接続のための活動の充実により、自己有用感を高めることができた。
	3 歌声の響く学校を実現	・校内音楽会の充実	A	○どの学年も一生懸命に素敵な歌声を響かせることができ、保護者や地域からも称賛の声をいただいた。 ○音楽会の充実により、歌声の響く学校を実現することができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 学校教育目標を具現化するため、「潤いと品格のある西町小」を目指す学校像として、組織的に教育活動を推進することができた。
- 問題行動等に対しては、「報告・連絡・相談」を徹底するとともに、生徒指導主任を中心とした複数による組織対応の仕組みを構築することができた。
- 全校児童集会、公開音楽会、学校公開等の公開日や学校ホームページの配信を通して、広く地域へ教育活動を発信することができた。
- 校内研修で、外国語・外国語活動の効果的な指導法を構築することにより、児童の豊かなコミュニケーション能力を高めることができた。
- 特別の教科道徳について、大学教授による講演や授業研究会を通して、多面的・多角的な考え方を通して、「考え、議論する道徳」の効果的な指導法を構築することができた。
- 学校クリーン活動の活性化を図り、PTA親子草取りクリーン清掃を実施し、学校環境整備に努めた。

6 次年度の改善策

- 家庭と連携して取り組むことで、児童が進んで元気なあいさつができる効果的な指導法を探り、適切な指導を行う。
- 図書館教育について、より効果的な指導法の研究を行い、全学級において、本が好きで進んで読書する児童の育成を行う。
- 情報教育について、より効果的な指導法の研究を行い、全学級においてプログラミング教育の確実な指導を実践する。